

[2 月度講演会]

「技術者倫理に関して」

講演者：会員 横山 素夫

1. 何を最優先するか

全米専門技術者協会倫理規定(1974 年改正)によれば、前文に「技術者は、最高度の倫理行動規範にそって、専門家としての職務を遂行しなければならない」と記載している。さらに、基本的規範に「1. 公衆の安全、健康、福利を最優先しなくてはならない。2. 各雇用主ないし依頼主のために、誠実な代理人ないし受諾人として行動しなければならない」と規定しており、この2つの条項が両立しない、すなわちトレードオフの関係にあるときは、はっきり公衆の安全等を最優先することが自明の理である。

一方、日本技術士会の技術士倫理綱領(2011 年最新改訂版)において、基本綱領に「技術士は、公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮する」と明示されており、米国とほぼ同様の記載になっている。

2. 事例紹介と意見交換

今回「技術者倫理」の講演にあたり、中村収三・近畿化学協会工学倫理研究会共著「技術者による実践的工学倫理」に基づいて過去の代表的な事例を説明し、質疑・応答形式により進行する形をとった。その事例を紹介する。

① チャレンジャー事故のケース

有名な「チャレンジャー事故」では、固体燃料タンクの O リングの構造と、発射時の低温(-8°C)による危険性を指摘していた、モートン社の技術者ボショリーの警告は、経営者によってどのように無視されたか。経営者と技術者の位置関係や、技術者は警告するという「安全パイ」的行動で免罪されるのか。事故が起こらなければ「技術者倫理」は表面に出てこないのか。

② シティコープ・ビルと耐震強度偽装事件のケース

ニューヨーク高層ビル「シティイコープ」を設計し、完成後計算間違いを発見、勇気を持ってしかるべき補強を行ったルメジャー設計士の技術者倫理と日本で起きた姉齒建築士による確信犯的な偽装事件と対比。

③ フォード・ピント事件と三菱自動車欠陥隠しのケース

三菱自動車の欠陥隠しや、死亡事故発生の危険性を知りながら販売を行ったフォード・ピント事件など事例。

上記の事例に対して、有益で突っ込んだ意見効果があった。エンジニアとしての過去の反省、普通に考えていたことが「おかしい」との指摘、「原子力発電所」の安全性に対する技術者の考え方や政治的な視点、またマスコミと一般大衆の「雰囲気」の問題点などにおいて、思考が深められたと考える。

3. 技術者として心がけておくこと

- ① 自分の論旨を明確に伝えること、説得力のある話ができること。
- ② リスクマネジメントに対する「話し合い」の重要性や、倫理的問題への対応について記録を残しておく技術の習得。
- ③ 「倫理」は詰まるところ『人命・健康の重視』であること。